



電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されているものは、それに基づき電気工事をおこなってください。

### 安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。
  - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じる危険が想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**
- 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 記号は行為を禁止する内容を告げるもの。左図の場合は分解禁止が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- 警告**
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
取付注意
  - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと  
取付注意
  - 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと  
取付注意
  - 配線工事は電気設備技術基準および内線規程に従って法的な資格者が工事をおこなうこと  
取付注意
  - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること  
取付注意
- 注意**
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けすること  
取付注意
  - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けすること  
取付注意
  - 自然排気型のストープを使用するときは、空気取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること  
取付注意

- 注意**
- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
取付禁止
  - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと  
取付禁止
  - 運転中は、指や物を絶対に入れないこと  
取付禁止
- 注意**
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること  
取付注意
  - レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にこなうこと  
取付注意
  - 部屋の取り付けは確実にこなうこと  
取付注意

- 注意**
- 浴槽など湿気が多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
取付禁止
  - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと  
取付禁止
  - 運転中は、指や物を絶対に入れないこと  
取付禁止

- 注意**
- 浴槽など湿気が多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
取付禁止
  - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと  
取付禁止
  - 運転中は、指や物を絶対に入れないこと  
取付禁止

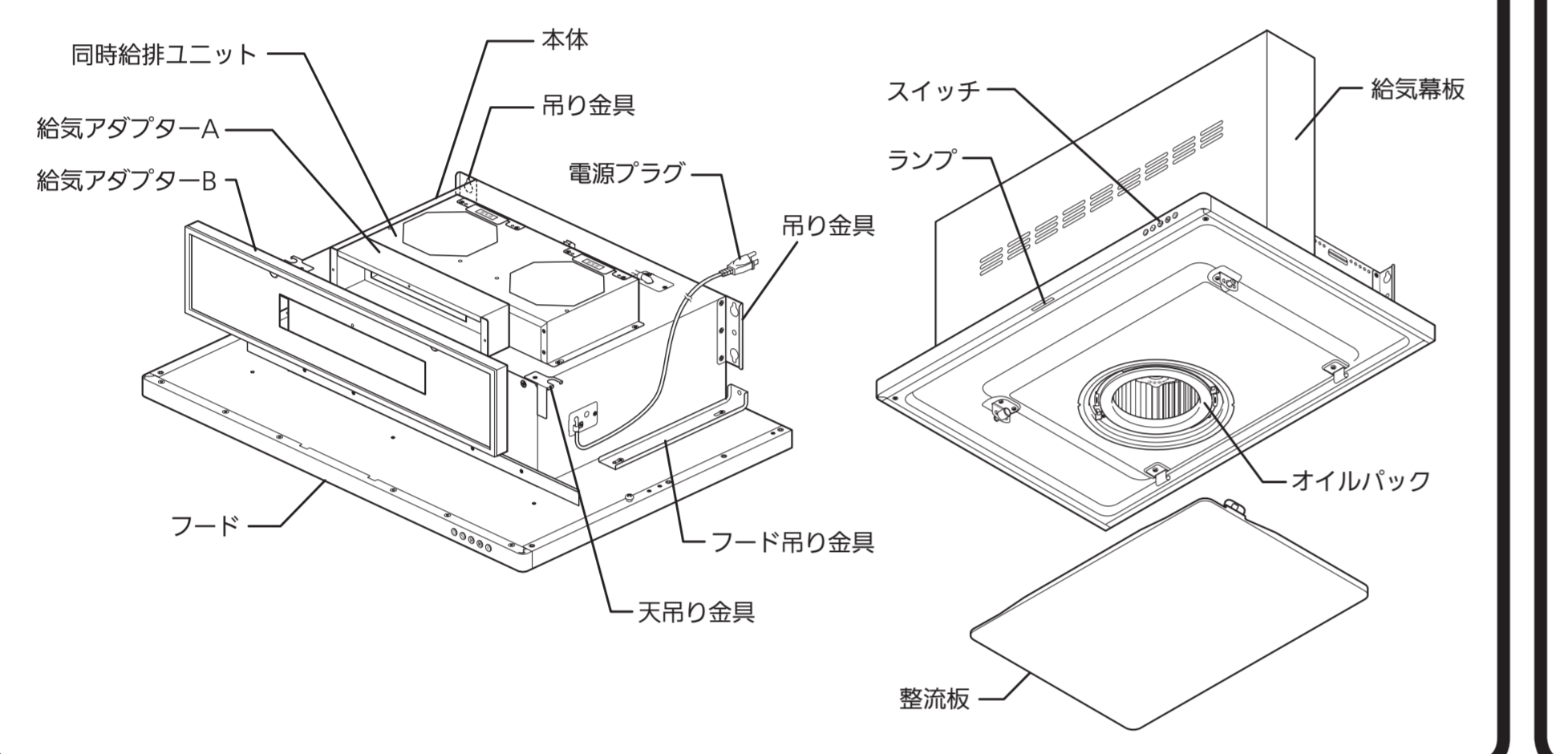
### 取り付け上のお願

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的な資格者がおこなう必要があります。
  - ・大工工事【設置のための下地工事等】
  - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
  - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣認定品の不燃材料で被覆してください。
  - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。  
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。捕集性能が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの透過抵抗は400m<sup>2</sup>/h時50Pa以下のものをご使用ください。  
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気性能をいじしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用座付ねじは45mmの長さのものが同梱されていますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座付ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けください。なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
- レンジフード下部には、湯沸器を壁に取り付けしないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していたければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm<sup>3</sup>程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：1/100～1/50程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。塗表面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、建物の気密性によって給気が必要となる場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

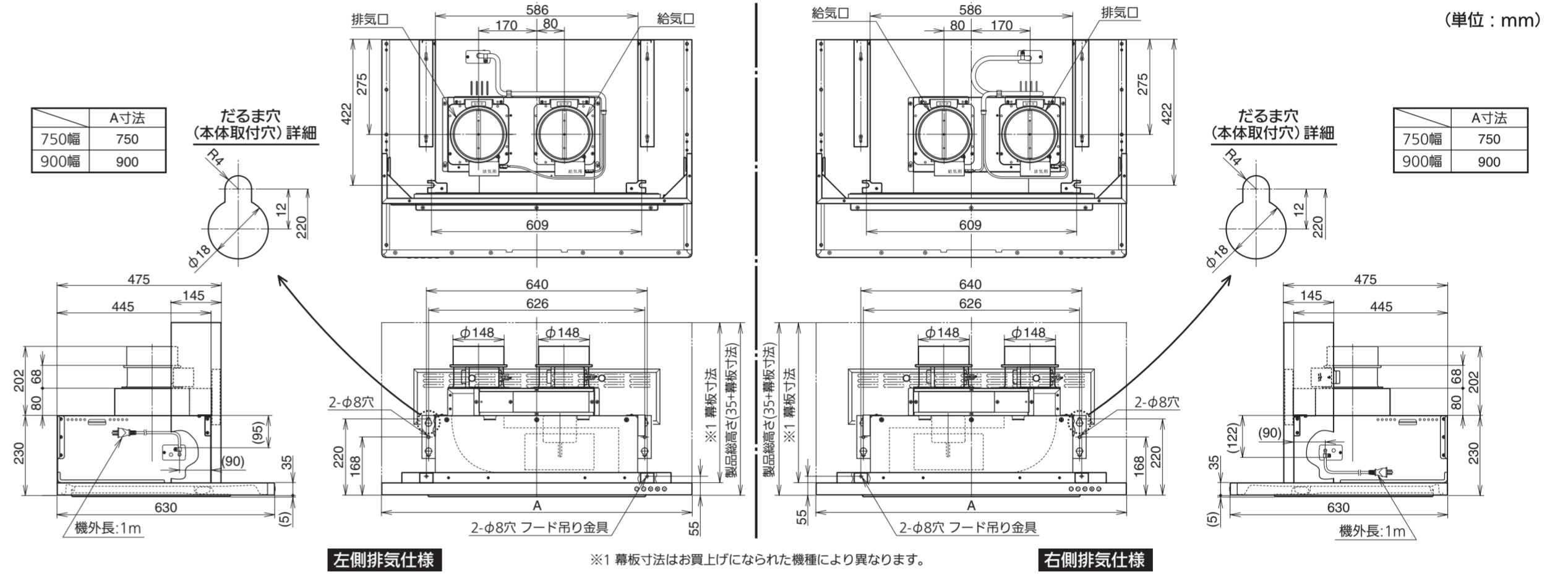
### 取り付け前の調査と準備

- 警告**
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
取付注意
  - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
取付注意
  - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと  
取付注意
  - 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと  
取付注意
  - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けすること  
取付注意
  - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること  
取付注意
- 注意**
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと  
取付禁止
  - 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること  
取付注意
  - レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にこなうこと  
取付注意
- 1 取付面の強度確認  
製品を支える強さが必要です。
- | 製品単体質量    | 750幅 25kg |
|-----------|-----------|
| 900幅 27kg |           |
- 板厚が20mm以下の場合は壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。  
● 板厚が20mm以上の場合は補強板の必要はありません。
- コンクリート、タイル壁の場合  
● あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールブラッグ等を使用し固定してください。
- 土壁の場合  
● 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。
- 2 吊りボルトの設置  
2本の吊りボルトを右図および製品寸法図を参照して天井梁に取り付けます。  
※吊りボルトはM10（市販品）を使用してください。
- 3 別売部品の準備  
排気工事に応じた別売部品の準備が事前必要です。
- 4 標準取付寸法  
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで80cm以上です。  
※火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。
- 5 電源コンセント・ブレーカー  
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相100V）  
コンセントは、JIS C 8303 2極接地横差し接続器15A 125Vをご使用ください。
- お願**  
必ずアース（D種接地工事）をしてください。レンジフードが動作することがあります。

### 各部のなまえ



### 製品寸法図

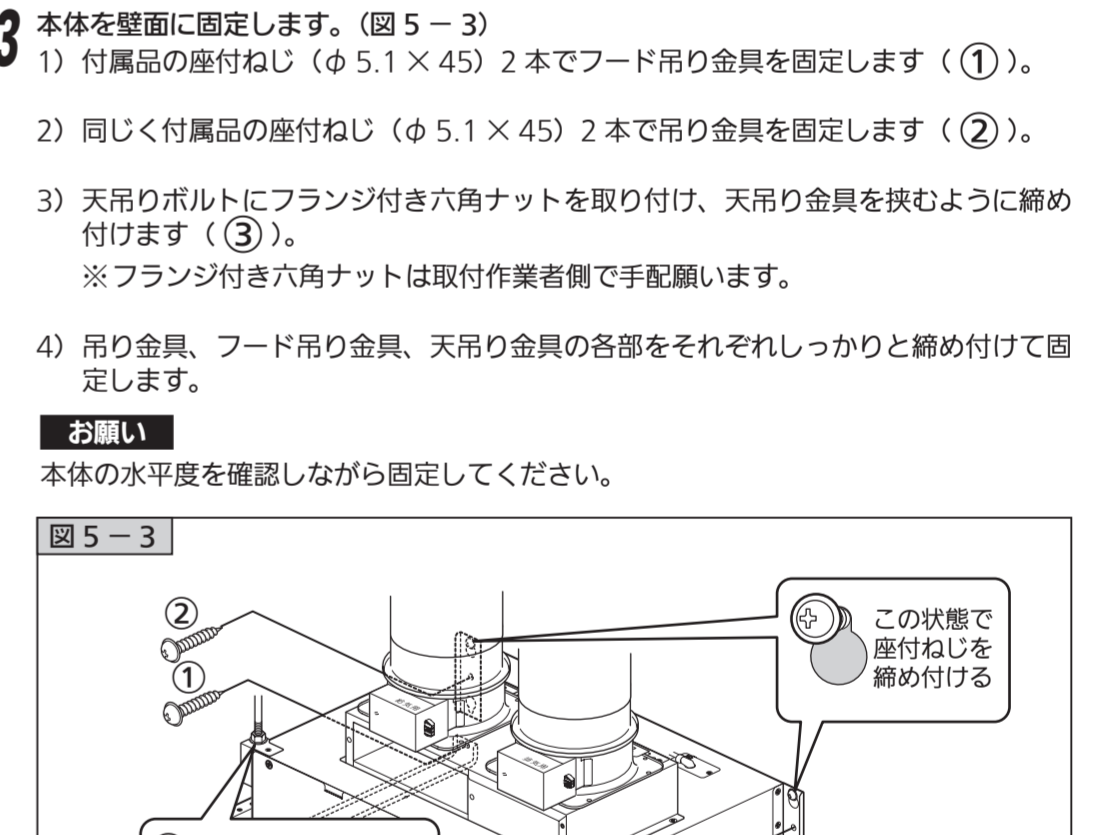
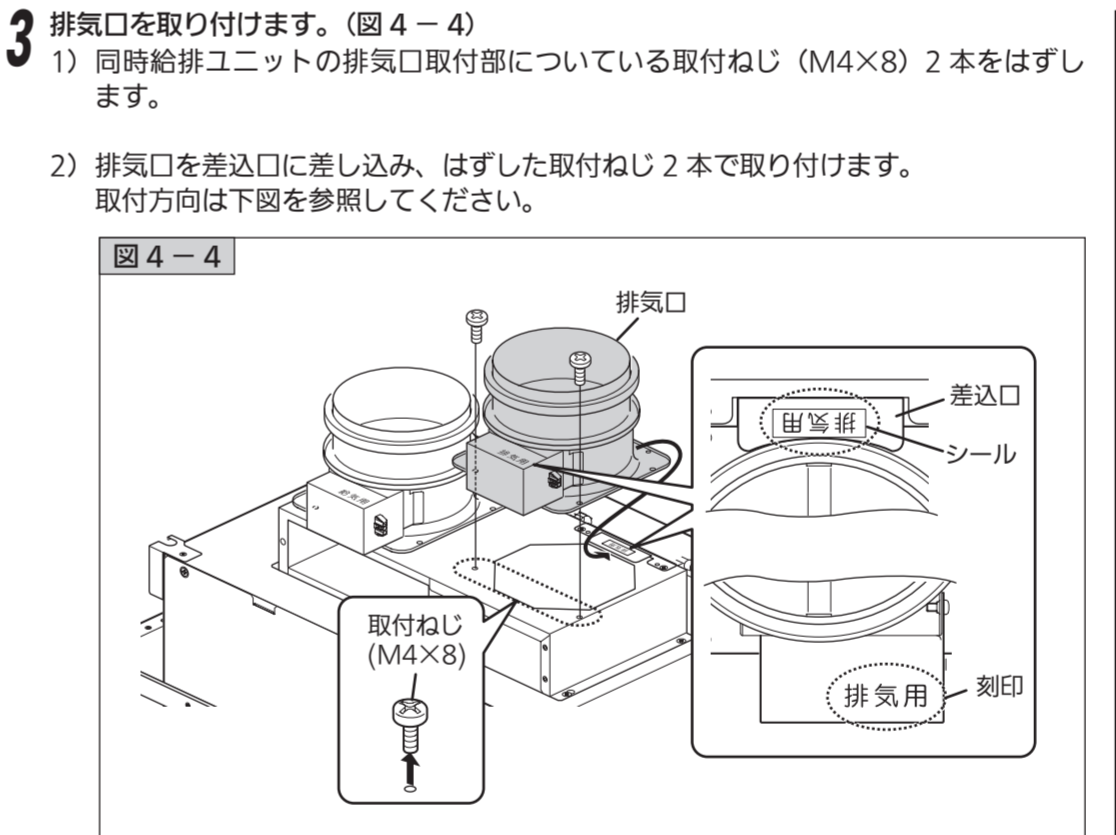
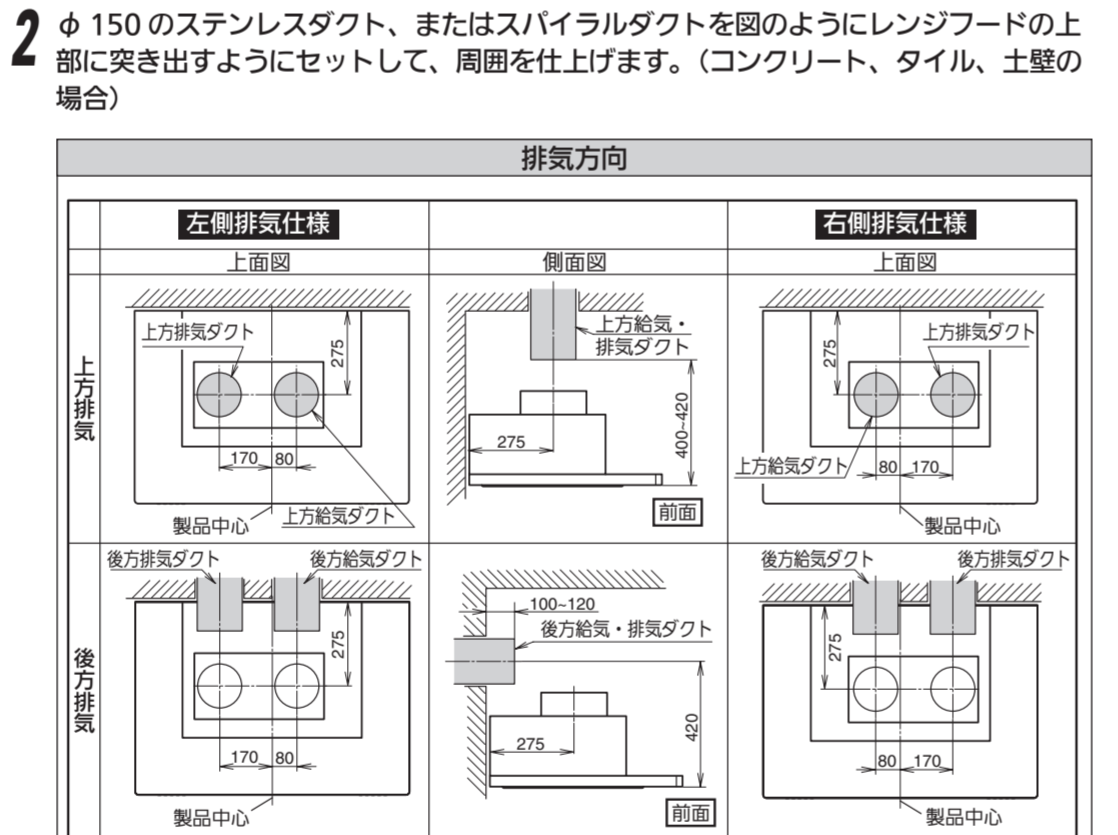


- 付属品**
- 座付ねじ (φ5.1×45) 6本  
本体の取り付けに使用します。
  - トラスねじ (M4×6) 9本  
給気簡板・給気アダプターA・Bの固定に使用します。
  - 給気口 (電動シャッター付) 1個  
本体と給気ダクトの接続に使用します。
  - 排気口 (電動シャッター付) 1個  
本体と排気ダクトの接続に使用します。
  - 給気アダプターA 1個  
同時給排ユニットと給気アダプターBの接続に使用します。
  - 給気アダプターB 1個  
給気アダプターAと給気簡板の接続に使用します。
  - 給気簡板 1個  
本体正面の目隠しに使用します。
  - ソフトテープ 2本  
給気口・排気口とダクトのすきまをふさぐのに使用します。

- 付属品**
- 座付ねじ (φ5.1×45) 6本  
本体の取り付けに使用します。
  - トラスねじ (M4×6) 9本  
給気簡板・給気アダプターA・Bの固定に使用します。
  - 給気口 (電動シャッター付) 1個  
本体と給気ダクトの接続に使用します。
  - 排気口 (電動シャッター付) 1個  
本体と排気ダクトの接続に使用します。
  - 給気アダプターA 1個  
同時給排ユニットと給気アダプターBの接続に使用します。
  - 給気アダプターB 1個  
給気アダプターAと給気簡板の接続に使用します。
  - 給気簡板 1個  
本体正面の目隠しに使用します。
  - ソフトテープ 2本  
給気口・排気口とダクトのすきまをふさぐのに使用します。

### 取り付けかた

- 1. 付属品の確認**
- 注意**
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること  
取付注意
- 付属品を確認します。  
梱包箱から付属品を取り出し、上項中央の付属品一覧により不足がないか確認します。
- お願**
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
  - 保護用のクッション材と固定テープは「8. 取扱説明書およびオイルパック固定テープの取り付け」まではずさないでください。
  - 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。



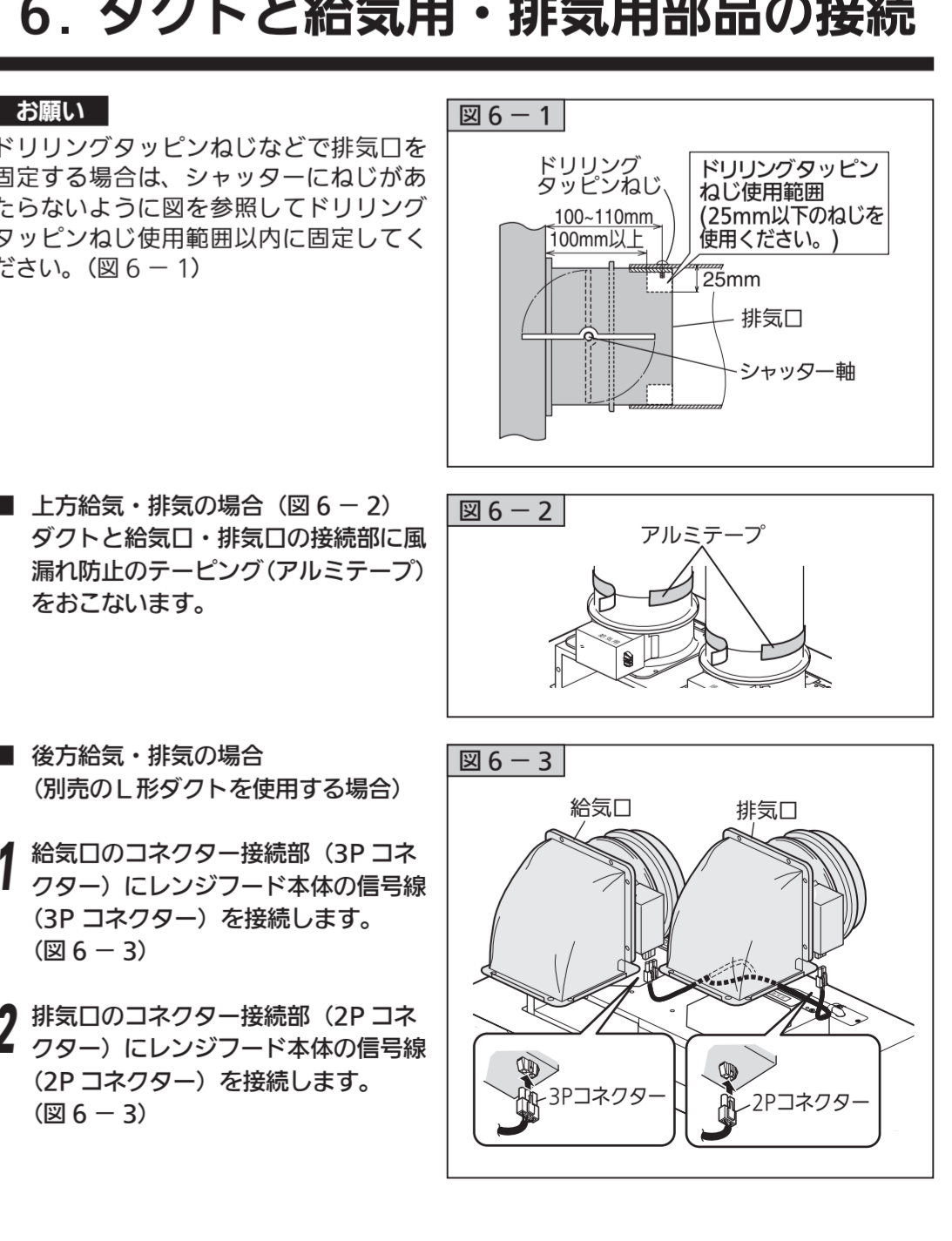
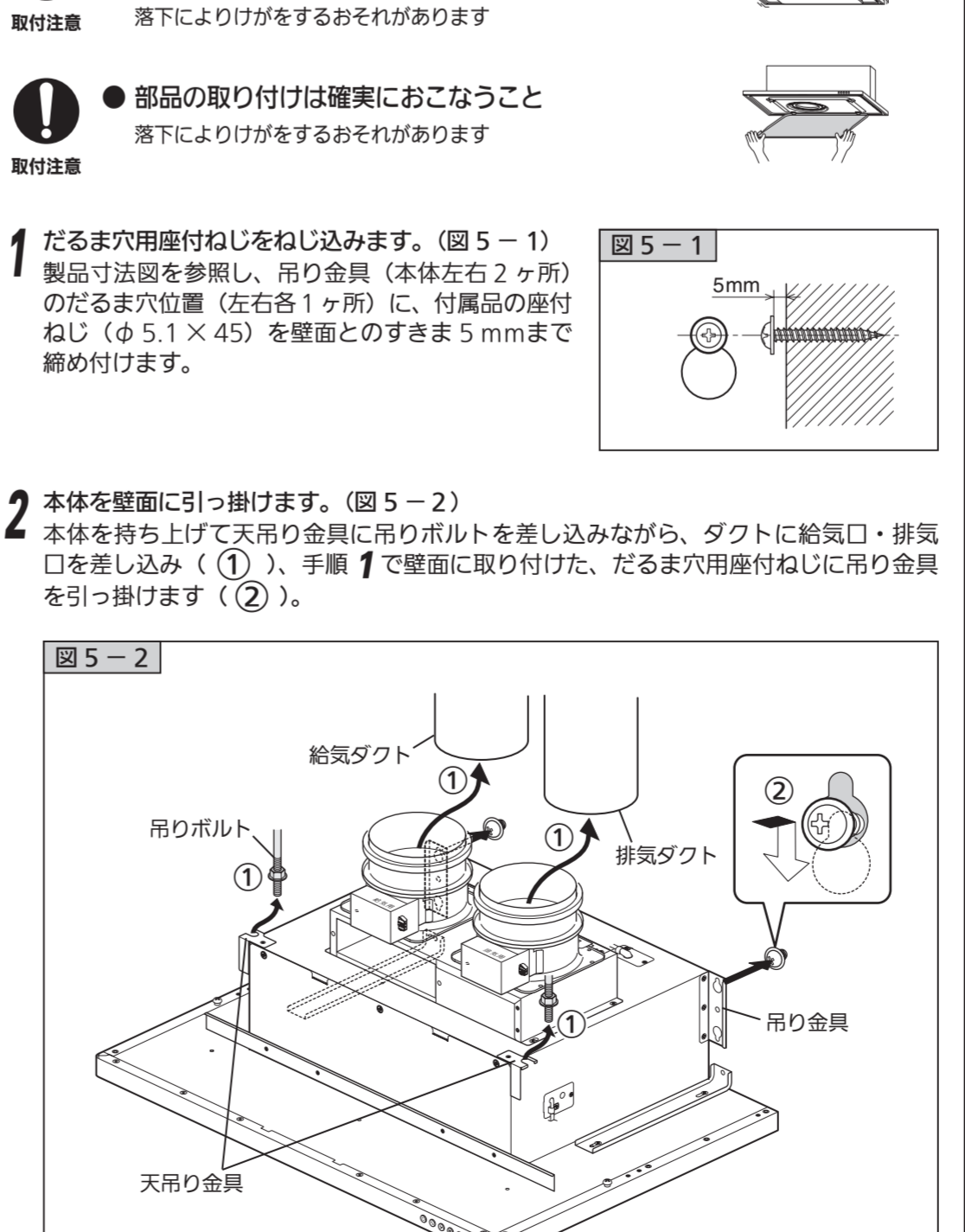
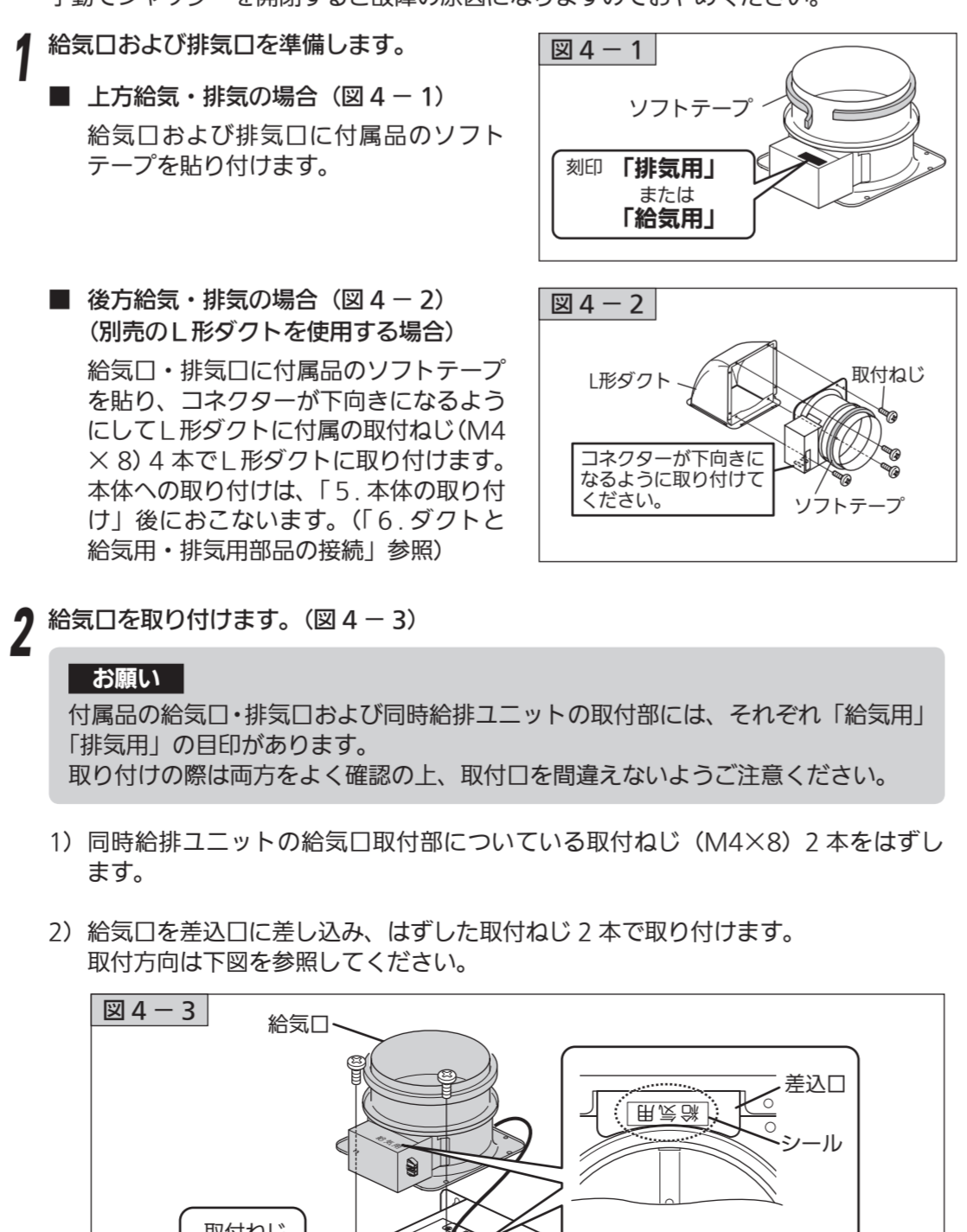
- 2. 本体の準備**
- 事前に取付けた吊りボルトにフランジ付き六角ナットを取り付けます。(図2-1)
- 吊りボルト上側のフランジ付き六角ナットの位置（天吊り金具取付位置）は製品寸法図を参考にあらかじめセットしておくことと後作業が容易になります。  
※ 吊りボルトとフランジ付き六角ナットは取付作業側で手配願います。
- 

- 4. 給気用・排気用部品の準備**
- 以下は右側排気の場合を示します。左側排気の場合は左右対称として見てください。
- ※ 「1. 付属品の確認」の項で取り出した給気口および排気口を用意してください。
- お願**  
手動でシャッターを開閉すると故障の原因になりますのでおやめください。
- 1 給気口および排気口を準備します。
- 上方給気・排気の場合 (図4-1)
- 給気口および排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。
- 後方給気・排気の場合 (図4-2)
- (別売のL形ダクトを使用する場合)  
給気口・排気口に付属品のソフトテープを貼り、コネクタが下向きになるようにしてL形ダクトに付属の取付ねじ (M4×8) 4本でL形ダクトに取り付けます。本体への取り付けは、「5. 本体の取り付け」後におこないます。(「6. ダクトと給気用・排気用部品の接続」参照)
- 

- 5. 本体の取り付け**
- 注意**
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にこなうこと  
取付注意
  - 部屋の取り付けは確実にこなうこと  
取付注意
- 1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図5-1)
- 製品寸法図を参照し、吊り金具（本体左右2ヶ所）のだるま穴位置（左右各1ヶ所）に、付属品の座付ねじ (φ5.1×45) を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。
- 
- 2 本体を壁面に引っ掛けます。(図5-2)
- 本体を持ち上げて天吊り金具に吊りボルトを差し込みながら、ダクトに給気口・排気口を差し込み (1)、手順1で壁面に取付けた、だるま穴用座付ねじに吊り金具を引っ掛けます (2)。
- 

- 6. ダクトと給気用・排気用部品の接続**
- お願**
- ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないよう注意を参照してドリリングタッピングねじ使用範囲内に固定してください。(図6-1)
- 
- 上方給気・排気の場合 (図6-2)
- ダクトと給気口・排気口の接続部に風漏れ防止のテープ (アルミテープ) をおこないます。
- 
- 後方給気・排気の場合 (別売のL形ダクトを使用する場合)
- 

- 3. 給気・排気方向の決定**
- 警告**
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けすること  
取付注意
  - 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと  
取付注意
  - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと  
取付注意
- 注意**
- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
取付禁止
  - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと  
取付禁止
- 1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的な資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。(ダクトの風漏れ防止のテープ作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください。)
- また、コンセントの位置を確認してください。



取り付けかたは裏面に続きます。



こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。  
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

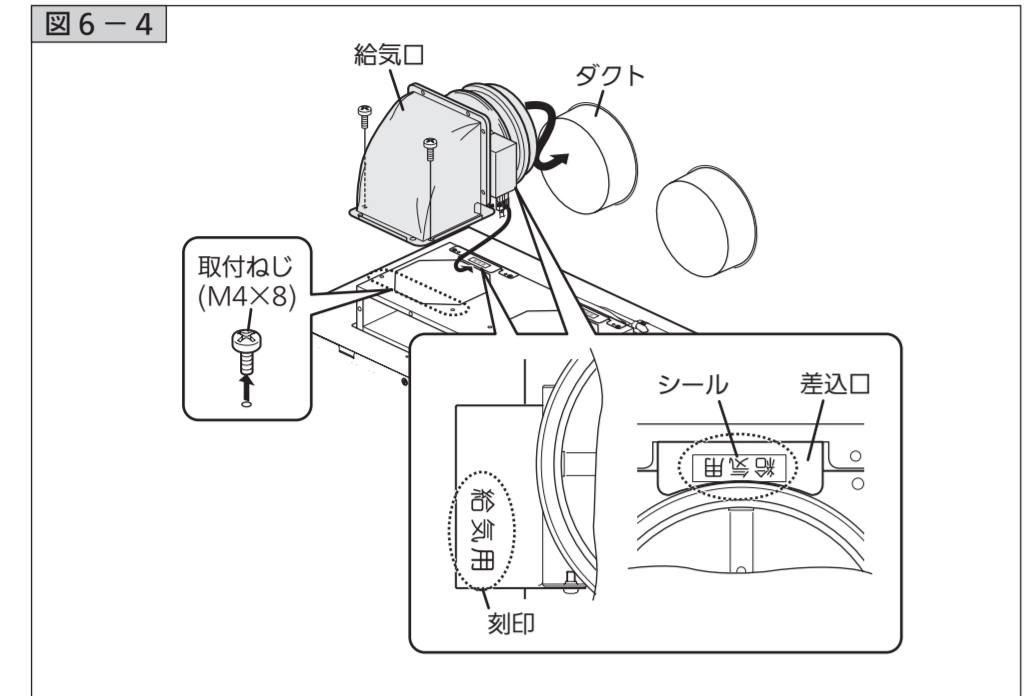
# 取り付けかた

## 3 給気口を取り付けます。(図 6-4)

**お願い**  
付属品の給気口・排気口および同時給排ユニットの取付部には、それぞれ「給気用」「排気用」の目印があります。取り付けの際は両方をよく確認の上、取付口を間違えないようご注意ください。

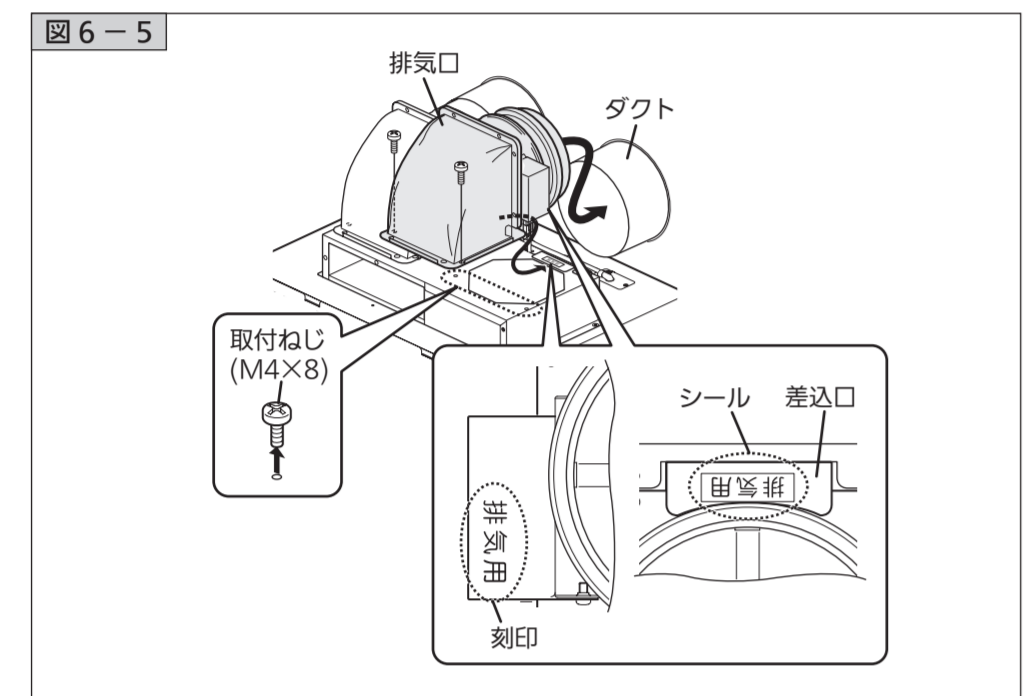
- 1) 同時給排ユニットの給気口取付部についている取付ねじ (M4×8) 2本をはずします。
- 2) 給気口を差込口に差し込み、はずした取付ねじ 2本で取り付けます。取付方向は下図を参照してください。

**お願い**  
・右側排気の場合と左側排気の場合で給気口・排気口の取付位置が異なりますのでご注意ください。  
・電源線などの配線をはさみ込まないよう十分に注意してください。

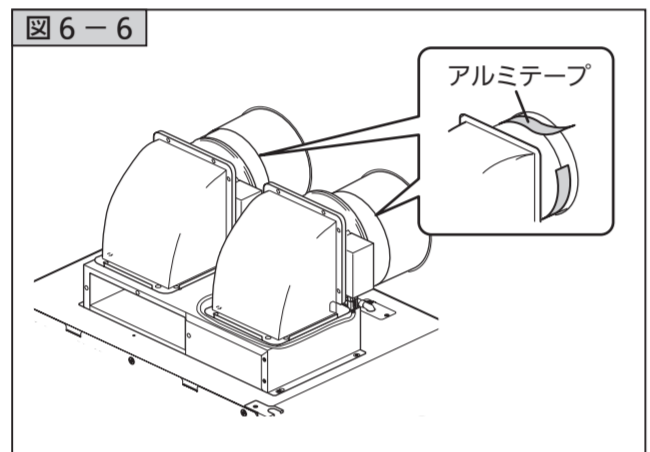


## 4 排気口を取り付けます。(図 6-5)

- 1) 同時給排ユニットの排気口取付部についている取付ねじ (M4×8) 2本をはずします。
- 2) 排気口を差込口に差し込み、はずした取付ねじ 2本で取り付けます。取付方向は下図を参照してください。

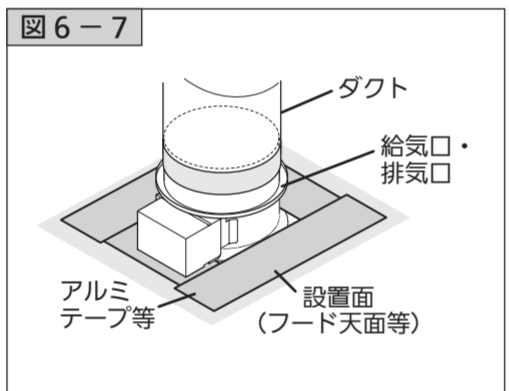


## 5 風漏れ防止のテーピング (アルミテープ) をおこないます。(図 6-6)



## ■ 給気口・排気口設置面の漏風確認のお願い (図 6-7)

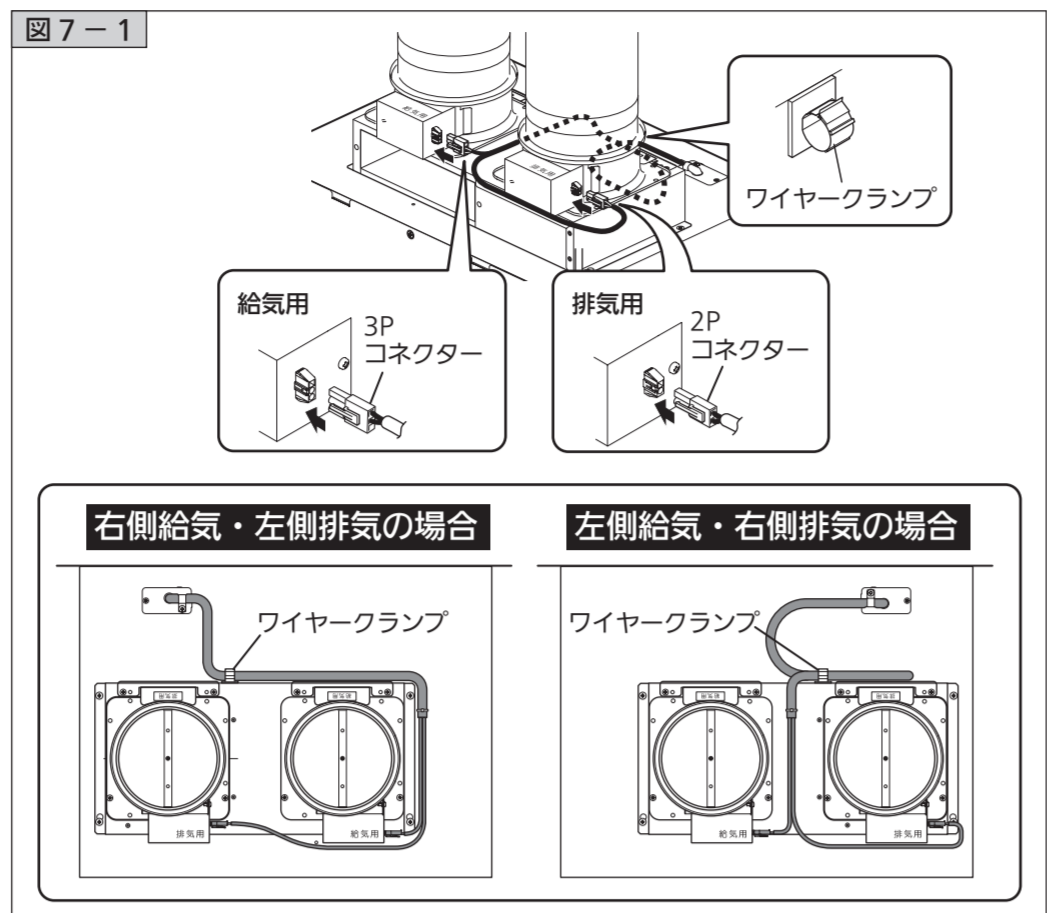
給気口・排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトに接続しようとする、設置面 (製品天面等) が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転 (強運転) をおこなってください。漏風する場合は、給気口・排気口と設置面の周りをアルミテープ等 (現場調達品) で漏風防止処置をおこなってください。



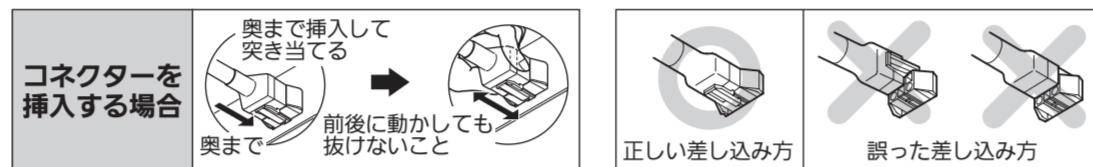
## 7. 給気口・排気口への連動線接続

**1** 給気口にコネクターを接続します。(図 7-1)  
給気口のコネクター接続部 (3P コネクター) に、連動線 (3P コネクター) を接続します。

**2** 排気口にコネクターを接続します。(図 7-1)  
排気口のコネクター接続部 (2P コネクター) に、連動線 (2P コネクター) を接続します。



**お願い**  
・コネクターの接続は確実にしておこなってください。接続が不十分な場合、正しく給気・排気ができなくなり、故障などの原因になります。また、電源線、連動線は挟まないようご注意ください。  
・コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。  
・給気口・排気口の取付位置が間違っている場合、配線が届かないことがあります。その場合は給気口・排気口を取り直ししてください。



## 8. 取扱説明書およびオイルパック固定テープの取りはずし

- 保護用クッション材をいったん取りはずし、整流板に貼り付けてある取扱説明書をはずします。
- 付属の取扱説明書を参照して整流板を取りはずし、オイルパックを固定しているテープをはがします。固定テープをはがした後は整流板をもとどりに取り付けてください。

## 9. 電気配線

### 警告

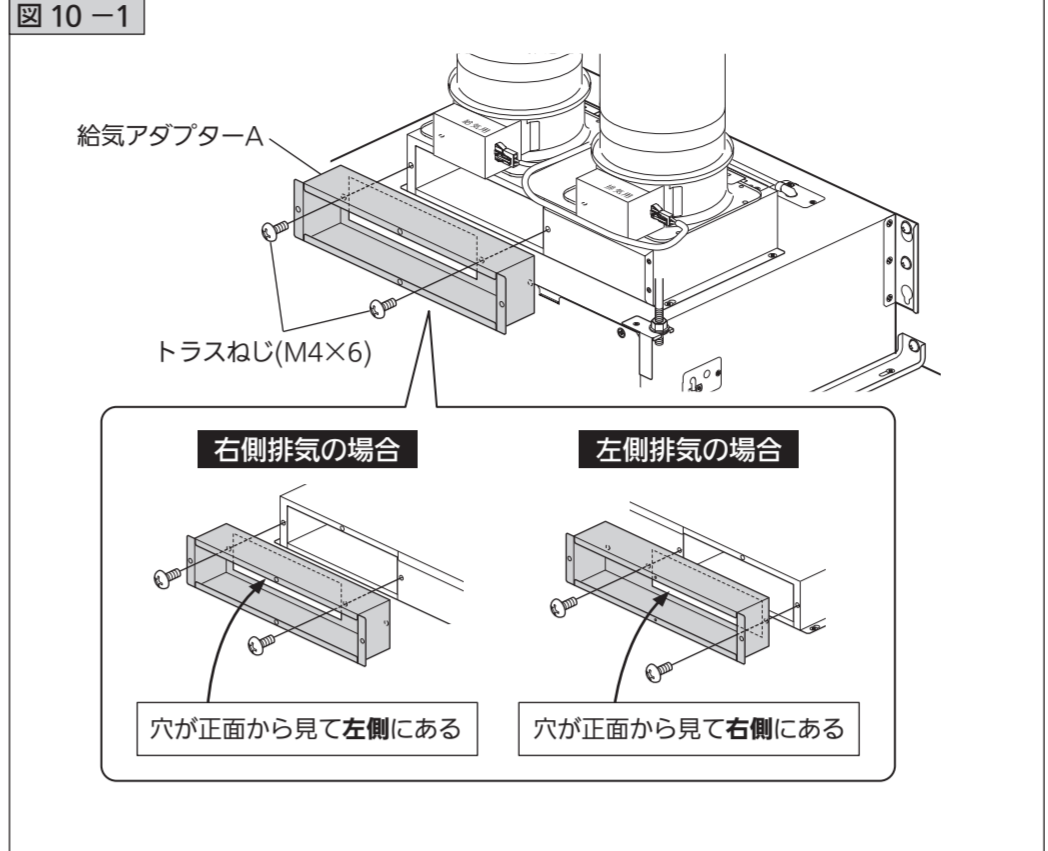
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと  
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります  
アースの取り付けは販売店にご相談ください

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

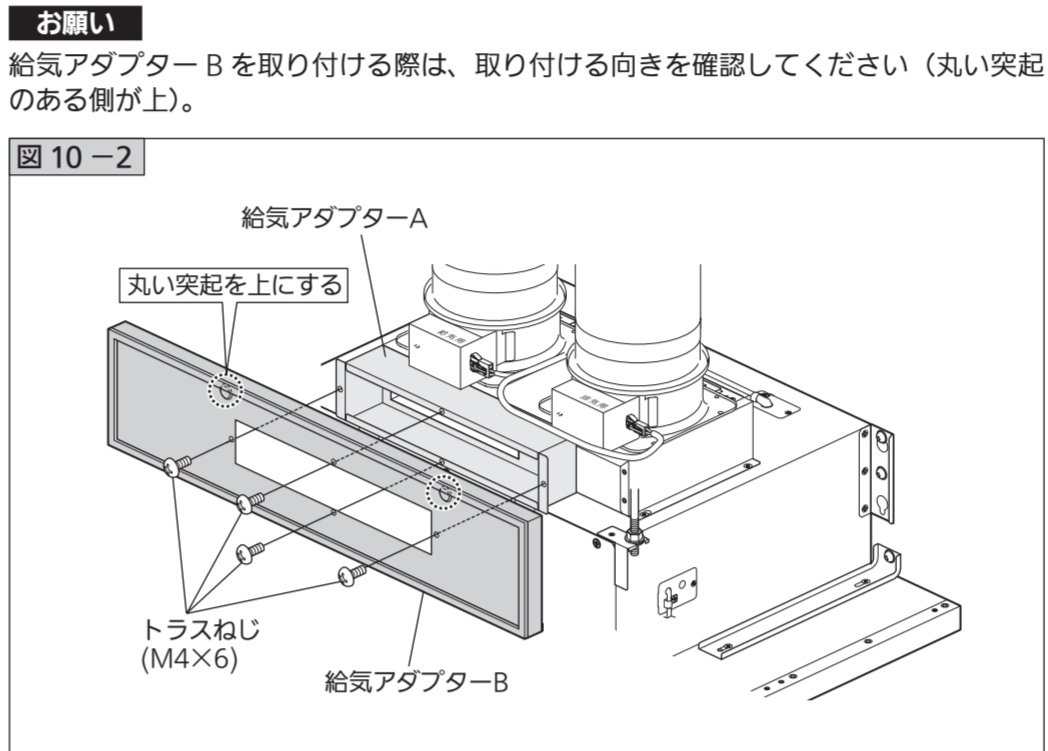
**お願い**  
・電源は専用のコンセント (2 極接地極付差込接続器 15A、125V) およびブレーカーを設けてください。  
・「11. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。  
・コンセントは電源コードの長さ (機外長約 1m) を考慮し、設置してください。  
・必ずアース工事 (D 種接地工事) をしてください。

## 10. 給気幕板の取り付け

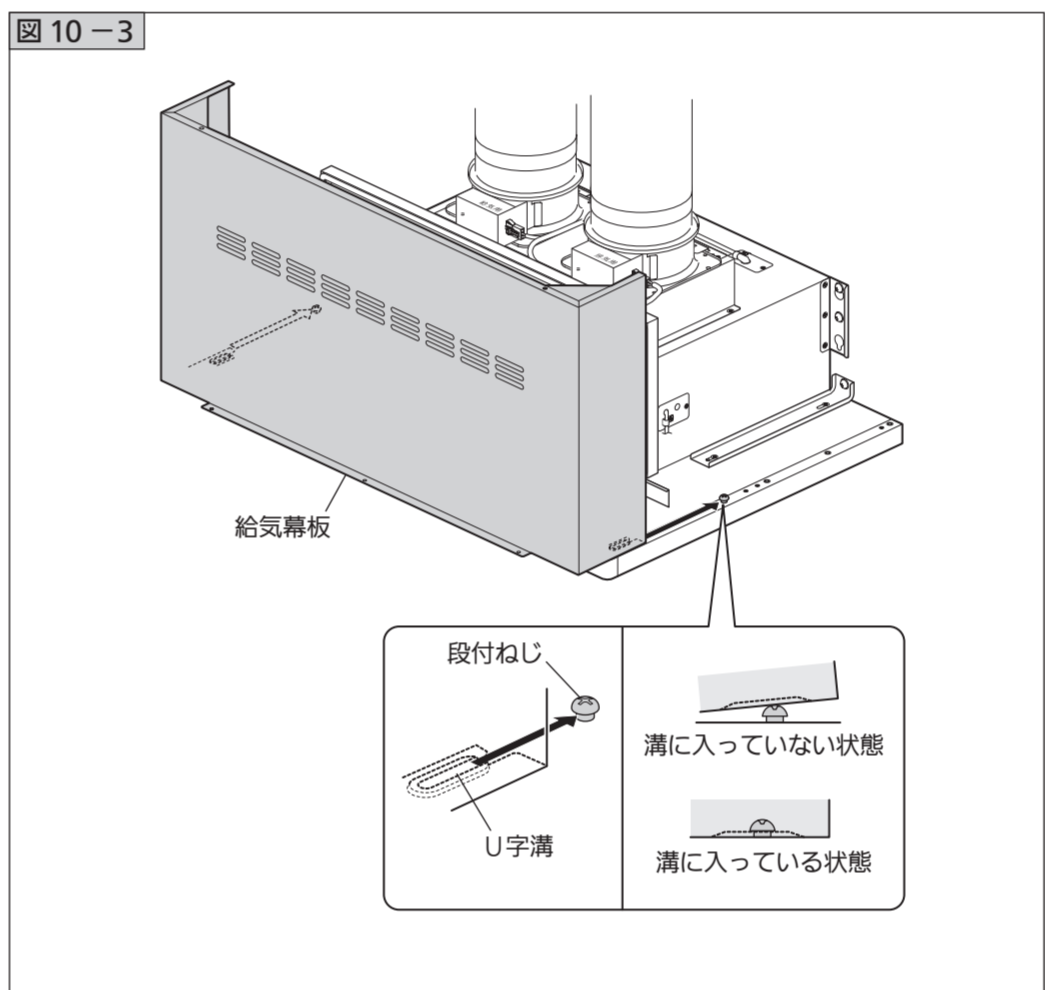
**1** 給気アダプター A を本体に取り付けます。(図 10-1)  
同時給排ユニットの開閉部と給気アダプター A の開口部を合わせ、付属品のトラスねじ (M4×6) 2本で固定します。



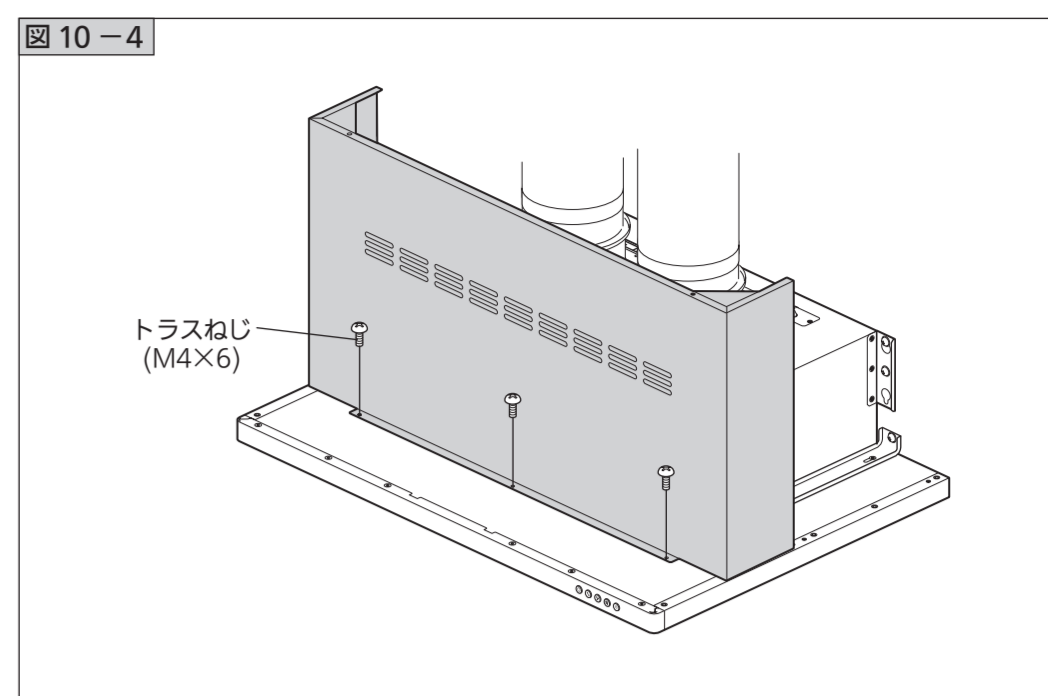
**2** 給気アダプター B を取り付けます。(図 10-2)  
手順 1 で取り付けした給気アダプター A に、給気アダプター B を付属品のトラスねじ (M4×6) 4本で取り付けます。



**3** フード左右の取付部にあらかじめ取り付けられている段付ねじに、給気幕板の U 字溝を差し込みます。(図 10-3)



**4** 給気幕板の前側下部 3ヶ所を付属品のトラスねじ (M4×6) 3本で固定します。(図 10-4)



## 11. 試運転

### 注意

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと  
けがをすることがあります
- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各連動の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。

## 12. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

【製造元】 **-FUJIOH-** 富士工業株式会社

本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号  
TEL 042(768)3754 (営業部)